

令和7年度 事業計画

1. 保育目標

令和7年度

虹のそらこども園のテーマ

『好奇心を育む環境をみんなで考えてみよう。』

『園の情報を地域に発信し、共生社会を目指す。』

環境は、日々の保育や園生活において常に取り組んでいる内容であるが、令和7年度については、配慮の必要な子に対しても、寄り添うことのできる環境を見直し、どの子も好奇心を育みながら遊べる物的、人的環境を考えていきたい。

また、園の様々な情報を地域へ発信していることから、引き続き、創業理念に思いを馳せ、地域の方々や老人福祉施設、小規模保育園、そしてグループ内の認定こども園ゆうゆうとも交流の機会をもち、充実した呼びかけができるよう取り組んでいきたい。

2. 園児の状況

定員延人数	定員	4月在籍数	年令別状況（4／1予定）					
			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
720 (72)	60 (6)	67 (3) 継続児童						
		61名 新規児童 9名	3	12	12	13 (1)	14 (1)	13 (1)

※（ ）内は、1号認定

3. 各特別保育事業

(1) 延長保育事業

年間延べ人数 1,300名 (2号、3号認定利用)

※ 令和6年度実績 1,250名

(2) 一時保育事業

年間延べ人数 一般型（勤務・病気・リフレッシュ等） 1,600名

※ 令和6年度実績 1,600名

パパ・ママリフレッシュ事業 150名

※ 令和6年度実績 145名

幼稚園型Ⅰ（1号認定利用） 100名

※ 令和6年度実績 80名

(3) 障がい児保育事業

心臓機能障がいの園児 1名 聴覚障がいの園児 1名

自閉スペクトラム症の園児 1名

4. 人事

職員の状況

園長	主幹保育教諭	副主幹保育教諭	事務長	常勤保育教諭	パート保育教諭	パート看護師
1	1	1	1	9	5	1
栄養士	調理員	パート調理員	薬剤師	嘱託医		計
1	2	2	1	2		27

5. 財務

- 令和7年度については、4月当初より、66名定員（2号・3号認定60名 1号認定6名）のところ、70名でスタートし、待機児童の受け皿となるよう努める。

育児休暇明けの予約制度が導入されているため、0歳児のクラスに6月に1名、8月に1名、9月に2名、11月に1名の入所が確定している。年間最終在籍数は、77名程度を予定している。

定員66名のところ、弾力運用約8%強上乗せで運営をなお一層安定させる。

- 食材、光熱費等、物価高騰により、一時保育料を、令和5年度より1500円から、1600円に引き上げており、令和7年度も同額とする。

また、職員の給食費についても、昨年度同様1食300円とし、今後の状況を見ていくこととする。

6. 施設管理

園児、保護者が安心して生活できるよう、環境の維持管理に努める。施設内も14年を過ぎると、経年劣化が目立つため、必要な改修、修繕は、費用対効果を勘案して必要な対策をとる。

門が劣化しているため、早急に改修工事を考えている。

7. 保護者と近隣との問題・地域交流活動の活性化

保護者や近隣との関係は、信頼関係もできつつあり、地域の行事はなるべく参加を心がけていく。

可能な限り下記の取り組みを行う。

- * 同じ地域の子どもや保護者に呼びかけ、積極的に園の開放を行なうことで、子育て支援に取り組んでいく。にじいろ広場を月1回開催、おはなし屋えっちゃんを月1回開催する。
- * 異世代の方々や高齢者等、幅広く関わりを深め、保育の充実を図るため、町内会や公民館等の協力を得ながら、地域との交流会を行なう。
- * 近隣の小、中学校、高等学校と連携を密にとり、学校側の行事にも、積極的に参加する。

8. 理事、評議員における研修活動

- * 昨年度の社会情勢を検証しつつ、理事、評議員、こども園、保育園職員とで園運営について、情報交換を行なう。年2回程度、先進施設視察を取り入れる予定。

行事や、園外研修等にも参加し、法人園としての在り方について共通理解を深める。

令和 7 年度 事業計画

1. 保育目標

令和 7 年度テーマ

『食べることを楽しみ、異年齢や地域の方とふれあいながら、食育活動を行う。』

令和 7 年度は、生きる上で最も大切な食について考え、一人ひとりの子どもの姿を捉えながら給食提供や食育活動をするを、重点的に行う。

近年では、誤飲や誤嚥などにも細心の注意を払わなければならないことが社会的にも大きく取り上げられている。その状況を踏まえて、自園でできることは何かと考えたとき、給食提供において保育士と栄養士、調理員等の様々な職種の職員が連携して、クラス別の食事についての具体的な方法を考えたり、個別的な配慮をしたり、保護者支援をしたりすることではないかと話し合う。それぞれの専門性を活かして、実際に保育に入ることによって実態を把握することも大切にする。

また、食育活動においても、野菜作りをして、収穫、食べるという経験をする機会を多く持つようにする。その中で、自然と異年齢の子どもたちとの関わりが増えたり、地域の方と畑に出向きふれあったりしながら、食への興味を持ち、食べることの楽しさが味わえるようにしていく。

2. 園児の状況

令和 6 年度 4 月の在籍数は、12 名であった。令和 7 年度 4 月の在籍数は 18 名で、0 歳児の入園予約が 1 名決定しているが、定員は満たしていない状況である。現在、5 月の入所可能数を 0 歳児 1 名と 2 歳児 1 名として、松山市役所に働きかけている。早急に定員いっぱいとなるように、ホームページで空き状況を発信したり、一時預かり利用の保護者に入園を勧めたりするなどしていきたい。

定員延人数	定員	4 月在籍数	年令別状況（4 / 1 予定）		
228	19	18 継続児童 12 名 新規児童 5 名 ※入園予約 1 名	0 歳	1 歳	2 歳
			3 (定員 6) ※入園予約 1 名	7 (定員 6)	7 (定員 7)

3. 各特別保育事業

(1) 延長保育

年間延べ人数 令和 7 年度 120 名

令和 6 年度は、毎日決まって利用する園児はいなかった。令和 7 年度も同じく、保護者の仕事が残業になった場合のみ利用することが予測される。令和 7 年度も、毎月の保護者の就労状況を把握するようにしていきたい。

(2) 一時預かり事業

年間延べ人数 令和 7 年度 1420 名

令和 6 年度 3 月に 10 名程、自園や他園に入園が決定しており、令和 7 年度 4 月は、登録人数が減ることが予測される。しかし、3 月に 1 歳児待機児童の一時預かり利用の問い合わせが数名あった為、受け入れるようにしているので大幅に減ることはない。

例年、年度途中で登録人数に変動がある為、引き続き利用人数を増やせるように働きかけたい。

(3) 障がい児保育

4 月予定人数 0 歳児 1 名

4. 人事

職員の状況

令和7年4月の採用は0名である。

令和7年2月28日付で常勤保育士が1名退職し、2月にパート保育士が1名産休に入ったため、3月1日付でパート保育士を1名採用した。

現在、退職や産休で不足している保育士を補うことが出来ていないのと、今後もパート保育士1名が産休予定であることから採用できるように努めていきたい。しかし、ハローワークや社会福祉協議会の人材センター、保育士養成校に求人を出しているが、常勤保育士がなかなか見つからないのが現状である。引き続き情報を共有するようにしていきたい。

園長	常勤 保育士	パート 保育士	パート 看護師	栄養士	調理員	計
1	6	6 (うち1名産休)	1	1	1	16

5. 財務

令和7年4月は、園児定員19名のところ、園児数18名でスタートする。0歳児の定員を埋めることができず園長としての責任を痛感している。今後も行政と情報を共有し、地域の様々な機関に働きかけるようにしたい。

6. 施設管理

- * 保育に必要な環境はある程度整っているが、使用できなくなった物は買い替えをしたり、その他、必要な物についても検討して購入をする。
- * 園児が安全かつ快適に生活できるよう、建物設備等の維持管理、事故の防止、および防災対策の充実に努める。

7. 保護者と近隣との問題・地域交流活動の活性化

- * 創業理念を尊重しながら、引き続き地域の方との交流を積極的に行う。
- * 町内会や公民館等の地域に出向いて、自園のことを知ってもらえるような機会を作る。
- * 園近くの居相農園の方と一緒に季節野菜の収穫を体験したり、近隣の公園へ花を植えに行ったりしながら交流を楽しむ。
- * 登降園の際には、園での様子を伝えたり、保護者の気持ちに寄り添ったり、共感したりしながら話しやすい雰囲気を作り、子育て支援を行っていく。
- * 家庭訪問や個人懇談を年1回行う。また、相談内容に応じて、個人懇談を随時行う。
- * 子育て中の地域の方にも、興味をもってもらえるような小規模ならではのアットホームな環境作りに努め、いつでも気軽に見学ができるような体制を整え、一人ひとりの保護者に対して丁寧な関わりをする。
- * 地域の防災訓練に職員が参加し、消防署の方から助言を聞いたり、住民の方々と防災に関する情報交換をしたりして、火災や地震についての知識を深める。また、実際に災害が起きた時のことを想定し、石井公民館や南中学校、ドウエル椿参道マンション（上階）等の避難訓練を行いながら協力体制を作る。

8. 友悠グループ活動の活性化

- * 感染症の状況をみながら、虹のそらこども園や認定こども園ゆうゆうの園児と交流を行う。
- * 椿祭りの期間は、虹のそらこども園で合同保育を行う。
- * 職員一人ひとりがグループ園としての活動を理解し、積極的に他の施設の職員と関わりをもち、情報交換をする。
- * 3園で研修を行い、互いに職員の保育における質を高め合う。

令和7年度事業計画

1. ゆうりん苑 事業方針

ご利用者の自己決定を尊重し、私たちの思いを一方向的に提供するのではなく、共に考え、ご利用者主体の介護が行えるよう支援する。

施設の役割を明確化し、ご家族がしてあげたい事、施設が出来る事を話し合い、相互理解に努めご利用者にとって穏やかでより良い生活が送れるよう支援する。

2. 事業計画

(1) 高齢者総合福祉施設ゆうりん苑（地域密着型特別養護老人ホーム）

① ユニットケアの実現とケアに対する意識の変革を推進

・入居者、家族の希望する個々の生活スタイルに合わせたケアの実現と「施設であっても入居者にとっては家である」ことを念頭に置き、一斉一律のケアからの脱却に向け、勉強会の開催と研修の参加を進めていく。

② 目標稼働率

・稼働率 97.0%を目標とする。

㊦入院による空床の減少

2月、3月は感染症まん延や体調不良等により特に入院者や退所者が多く、看護、介護、協力医療機関及び協力歯科医院と連携を密に図り、健康管理に留意し空床の減少に努める。

㊦退所後の空床を最短3～7日間で埋めるよう待機者を確保する。

病院の地域医療連携室、居宅支援事業所等と情報共有を行い、信頼関係を構築し、スムーズな入所の流れを作るよう努める。

㊦併設のショートステイ長期利用者から特養への入所者の増加を図る。

㊦営業活動の活性化に向けて、統括部長、リーダー等の訪問営業の強化を図る。

③ 科学的介護情報システム LIFE を活用したケアの向上を推進

・厚生労働省に対し利用者の情報を正確かつ確実に報告し、フィードバックされた内容を施設全体で共有を行い、サービス向上に繋がる体制を構築する。

④ B C P（事業継続計画）の認識の統一を図る

・これまで、避難訓練、災害訓練を行ってきたが、作成された B C P（事業継続計画）を元に、南海トラフ地震等に備えた実際の訓練、シミュレーション（緊急連絡網の実施、保存物資等の場所、使用確認等）、研修を行い B C P の定着を図る。また、感染症に関する B C P についても

同様に、年2回以上の訓練、シミュレーション、研修を行う。

(2) ショートステイゆうりん

① ご利用者満足のためのサービスの提供

・個々のニーズを聞き取り、趣味や生活歴を活かした歌や創作活動など個別ケアの充実を図り、お一人おひとりが満足できるサービス提供に努める。

⑦年間行事の充実、苑外周辺の散策、ドライブ等の企画運営を行う。

⑧レクリエーションや日常生活動作の訓練を行い、在宅生活の継続が可能となるよう支援する。

② 目標稼働率

・昨年同様、稼働率85%を目標とする。

⑦併設の特別養護老人ホームとの連携を強化し、ロングステイからの入所待機者の増加に努める。

⑧病院の地域医療連携室や居宅介護支援事業所等と情報共有し、信頼関係を構築し新規利用者、定期利用者の獲得に努める。

(3) デイサービスゆうりん

① ご利用者満足のためのサービスの提供

⑦柔道整復師、看護職員による2人体制での個別機能訓練を強化し大変好評であった。引き続き継続して運動機能向上、健康維持増進に努める。

また、日々のリハビリの実施状況、身体状況や自宅での環境などを含め、機能回復や維持に向けての計画・サービスを実践する。

⑧利用者の希望に沿った送迎時間の実施や個々のニーズに対応したレクリエーション・趣味活動（麻雀・花札・編み物等）を実施し、顧客満足度を高め、他事業所との差別化を図る。

⑨ICTでの記録システムを有効活用し、デイでの日々の状態やリハビリでの効果、変化を数値化し、関係機関やご家族に情報共有することで、見える介護を実践する。

⑩利用者同士が輪となって会話を楽しみ、交流できる環境を整え、個々の趣味や性格などを把握し、充実したレクリエーションが提供できるようサービス展開を実践する。

② 目標稼働率

・稼働率73%を目標とする。

⑦現在利用されている利用者のサービス満足度を高め、施設近辺での知り合いや口コミなどで新規利用者の獲得に繋がるように努める。

⑧連絡ノートや報告書を通じてご家族、ケアマネジャーと小まめに情報共有や連絡をし信頼関係の構築に努める。

- ㊦ホームページ、パンフレット、チラシを刷新し、営業活動に努めることで新規獲得に繋げる。
- ㊧要支援者は利用単価が低く、利用制限を行う事業所もあるが、要支援者の受入れ依頼があれば積極的に受け、将来の要介護者確保を見越し、12～15 人/月（稼働率約 16%）とし、残り 57%の稼働率を要介護者で運営するよう人数調整を行っていく。

(4) 人材の確保

① 外国人介護職の雇用の取組み

2 月より、日比介護国際共同組合を介し、フィリピンから技能実習生として 3 年間の契約で 2 名受け入れた。まずは日本の生活に慣れるため、住居、生活用品一式、送迎などを支援し、同時に勤務体制もマンツーマンの指導者を付けるなど、環境整備や身心の配慮を行い、4 月には遅出、早出勤務を組み込む予定である。

日本語でのコミュニケーション及び記入の問題が一番であるが、職員同士の協力意識が高まり、明るい雰囲気では活気ある介護現場になっている。

今後は、入居者とのコミュニケーション、一人で遅出、早出勤務をこなせるよう、支援指導することが課題である。

② 人材の育成・定着

- ・4 月より、処遇改善手当の支給要件が変更するにあたり、毎月の給与の引き上げ、キャリアパスの仕組みの再構築などが求められており、それらを元に職員のモチベーションアップ、職員の定着率の増加に繋げるよう取り組む。

- ・子育て支援やそれぞれの家庭の事情を考慮してワークライフバランスの取組みを行い働きやすい職場環境に努める。

- ・離職の理由として人間関係の悪化が多く、相談体制の強化、セクハラ、パワハラ、コンプライアンス等について常に呼びかけ、定期的な研修を行う。

- ・職員のやりがい、意欲、誇りを高めるため、年間研修計画を立て、外部研修や外部講師を招いての研修を積極的に行い、サービスの質の向上、介護技術の向上を目指す。

- ・リーダー等によるチームワーク強化についての会議を開催し、各部署の自主性、意識統一を図る。

(5) 人事

- ・松山学院 新卒者 1名採用
- ・職員の状況 ()内は非常勤の職員数

令和7年4月1日予定

施設長	事務長	事務員	生活相談員	介護支援 専門員	看護職員	介護職員
1	1	1	4	1 (1)	2 (2)	8 (17)
派遣介護 職員	機能訓練 指導員	管理栄養士	宿直 運転手			
(2)	(1)	1	(3)		合計	19 (27)

常勤 19人 非常勤 27人 合計 46人

(6) 地域貢献と地域交流

- ・社会福祉法人として、清掃活動、ボランティア活動、消防活動、避難訓練など地域行事に積極的に参加し、地域貢献、活性化に努め、地域住民との交流を深める。
- ・昨年はゆうりん苑7周年開苑イベントとして秋川雅史記念コンサートを行ったが、今年もご利用者、ご家族、地域住民の方々など関係者多数の希望もあり、また、秋川雅史氏の父親とゆうりん苑施設長の長年のご縁もあり、記念コンサートを実施する予定である。どなたでも観覧できるよう参加を呼びかけ、利用者の社会参加、地域交流等を行っていきたい。